



JR東日本は鉄道を中心とした「モビリティ」と「生活ソリューション」という2つの軸での事業活動を通じ、社会的課題の解決に取り組む高い志と地域社会の持続的な発展に貢献する強い使命感により、お客さまや地域の皆さまに心豊かな生活をお届けしています。

東日本旅客鉄道株式会社

地方創生型ワークプレイス JRE Local Hub 燕三条について

- ・ JR東日本と株式会社ドッツアンドライNZが連携して展開する地方創生型ワークプレイス
- ・ 地域産業の活性化を目的に、県内外のユーザーと燕三条のものづくり企業・技術をつなぐ取り組みを推進

燕三条こうばの窓口



コワーキングスペース



空間自在ワークプレイス



※「空間自在ワークプレイスサービス」とは、JR東日本とKDDI株式会社が共同提供する4K相 当画質の次世代オンライン会議サービスです。

首都圏と燕三条地域をつなぐ取り組み事例

首都圏と燕三条地域をつなぐ、地域の情報発信や人財育成などの取り組みを通じてものづくり産業の活性化を推進



燕三条のものづくりをテーマとした都立工科高校生向け教育プログラム

首都圏の高校生向けに工場見学、ワークショップを実施



JRE Local Hub 燕三条 in Tokyo Station

東京駅で展示会・商談会を開催

取り組み成果について

実績

MOCの会員数

124 件

ビジネスマッチングから
生まれた製品開発件数

108 件

2年間でのMOCを通じた経済波及効果

203,000,000 円

受賞

- ・ 2023年度グッドデザイン・ベスト100
- ・ 「第4回Digi田甲子園」準優勝を受賞

開発事例



極薄チタン名刺入れの開発

株式会社ドロームが、ビジネスの「人」との出会いの場をより素敵なものにするために、チタニウム製極薄サイズ1.6mmの名刺ケース「AIRNIUM」を開発



アウトドアサウナギアの開発

『Saunner of the Year 2024』を受賞した、東京を拠点に活動する「madsaunist（マッドサウニスト）」が、燕三条ものづくり技術と連携し、加熱水蒸気を生成する革新的なアウトドアサウナギア「スチームジェネレーター」を開発

成功要因について

地域課題

- ・ 高度な製造技術を有する一方、単一工程の分業体制により製品の付加価値が低い
- ・ 小規模事業者が多く、慢性的な人材不足と後継者不在により廃業が増加
- ・ 地域に点在する技術・知識・ノウハウが活用されず、横断的に結びつける仕組みや担い手が不在



地域産業と現代的働き方の融合の提案による地域課題の解決

自社アセット及びネットワークの活用

地域の玄関口となる駅にビジネス拠点機能を置くことで多くの人が交流できる場を創出

シェアオフィス機能や空間自在ワークプレイスサービスで離れていても利用者が地元企業とつながる機会をつくり、新たなビジネスや製品開発の創出につなげる



地域プレイヤーとの事業共創

燕三条地域の企業を取りまとめ、企業間で連携することで、情報共有や協業が促進し、地域全体のものづくり力を高めるプラットフォームを構築

人材や技術のマッチングを通じて、専門的な知見を活かし、企業の課題解決や新たな価値創出をサポート